

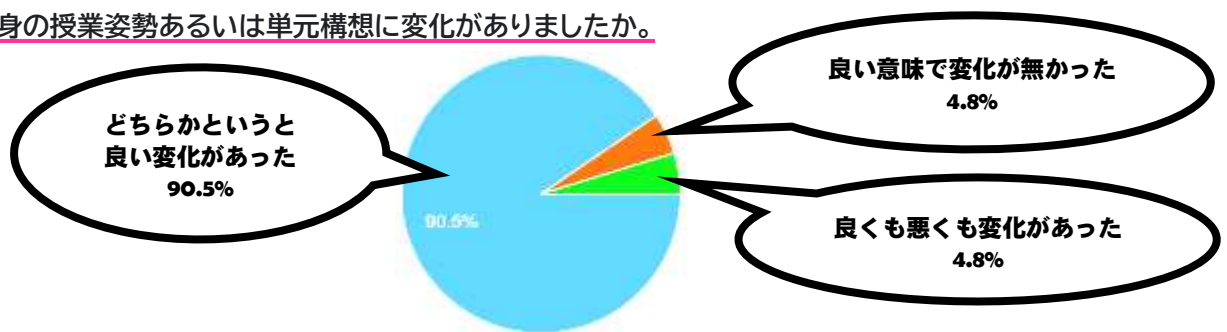
けんしゅう だより ④

中央中等教育学校 授業研究・FEWC 推進部
学年研修③第4号 令和5年3月31日発行

＊第3回公開研究授業後の学年別グループ協議・アンケートを元に作成しています。
＊スペースの都合上、ご意見同士をあわせたり、編集させていただいた部分がございます。

1. 探究的で創造的な課題設定

Q.今年度の【探究的で創造的な課題設定】をテーマとした授業参観・研修を経て、ご自身の授業姿勢あるいは単元構想に変化がありましたか。



「どちらかというの良い変化があった」

- ・基礎的な知識・技能の習得は大事だが、それを活用してはじめて本当の能力になる。「創造的」という視点を持って教材研究をすることで、より発展的な活動や、生徒の主体性を求める活動を授業に組み込めるようになった。
- ・先生方の探究的な授業を参観し、ICTの新たな使い方や授業の組み立て方を知ることができたから。
- ・ICTの効果的な使い方について、常に考えるようになった。
- ・Chromebookを使って調査活動をする则一人での作業・学習に向かていきがちだが、交流・まとめの場面でファイルを共有することで、他の人の考えを素早く知る方法として活用でき、さらに深い学びに向かていけると思った。
- ・概念を覆す課題を協働的に解決していくという授業ができるときには生徒が自発的に学習した。自分の概念を問直す機会が多くなった。
- ・他教科の授業を参観することで、自身の授業を多角的に捉えることができたから。
- ・わからないこと・知らないことを、考える・答えを出そうとする生徒が多いことが再認識できたため。
- ・ICTが unnecessaryなのに無理やりレッスンに入れるのではなく、よりわかりやすくペアのアイデアを全員に伝えたり、適切なレベルで使われていたりすると感じた。
- ・問に対する取り組み、目的に対する展開、それに伴う評価と、探究の手法を考えたことで、授業に奥行きと幅が出て、他分野との関連性を生徒に意識させることができた。
- ・生徒が自ら進んでより深い学びに取り組めるような課題設定になるよう工夫した結果、以前より生徒一人ひとりが自分のペースで取り組む様子が見られた。
- ・模範解答をあえて提示しないことの意味を教えてもらった。英語は和訳などを記述させたあと生徒同士で確認させたりするが結局その後で模範解答を口頭で提示し、のちに全文和訳を配布するのが当たり前だと思っていたので考えるきっかけになった。
- ・言葉や文字だけでなく、Jamboardを使って、視覚的にも理解を深めたり、共有したりする状況があった。生徒が主体的に参加し、授業の雰囲気非常に良かった。大変勉強になった。
- ・生徒が自ら進んで学びたくなるような課題設定をすることが意欲向上につながると感じて、それを心がけた
- ・授業のねらいを達成できる思考過程や予想される反応(会話)を十分に想像しながら、探究活動を設定することができた。探究活動による生徒の学びの反応(思考過程の姿や、ねらいを達成したときの生徒のポジティブな姿)を予想すると、より良い授業をつくらうと思うことができた。
- ・目的と手段を明確にして、授業や単元に段階的に組み込むことの大切さを再認識した。
- ・単元を通しての課題設定や、発問など生徒が主体的に追求し、学び合う時間を作り出そうと教材研究したり、展開を考えたりすることができた。

- ・教員が教えすぎないとことを念頭に、授業のねらいを明確にし、生徒にしかけ動かしていった。達成感を感じられる目標設定が大切である。
- ・探究的で創造的な課題設定について、研修を通して考え、実践することができたから。
- ・自分とは異なるアプローチや手法で生徒を主体的に動かす様子が見られて、とても勉強になった。
- ・良い意味で生徒の力を信じて待つようになった。

「良くも悪くも変化があった」

- ・良い変化では、探究を入れよう、こんなことをやってみよう、という意欲が湧き、色々な単元構想にチャレンジできたこと。良くない変化では、考査の性質が従来型の知識理解を問うものだったため、探究をうまく考査に取り入れることができず、平均点が下がってしまった。考査と探究は切り離すべきか。探究の一部を考査で問うてよいか。あるいは考査につながる範囲で探究を設定すべきだったか。模索中。
- ・ICTの活用に縛られず、授業改善できた。

「良い意味で変化が無かった」

- ・もともと探究的な授業を行っていたので、授業に変化はなかった。私の授業のやり方で、生徒はより深く考えるようになった。模擬試験の成績も他校と比較して良好な結果を出した。
- ・様々な取り組みを見せていただき、今後これらを参考にして自分の授業も改善させていこうという気持ちになった。

2. 学年別協議

1 学年 高橋亮先生 理科

【授業者の補足・説明】

光の学習が終わり、そのまとめ。立ち位置が遠くなると必要な鏡の大きさが小さくなるという思い込みに対する考察。必要な鏡の大きさや鏡と立ち位置の距離について考えさせてみた。作図は苦戦している生徒もいた。Jamboard でわかる子が図示し、それを元に班で考えていた。他班の考えも PC 上で確認できるので有効か。

①探究的で創造的な課題設定について

- ・参観教員も当初は立つ距離が離れていくにつれて必要な鏡の大きさは小さくなっていくと思っていたので、生徒も同様で、生徒の予想を裏切る=考えさせるいい課題設定だった。
- ・作図することで正解が見えてくるので、設定・展開がよかった。
- ・反射の作図の方法が既習事項で、それを活かしてまとめられるようになっていた。

②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・生徒が計測方法を理解するのに手間取っていたか。
- ・一人ではできない計測だったので、協働的だった。
- ・全員全役割(立つ・鏡をおさえる・測る)を果たし、繰り返し計測をしていた。鏡の大きさや立ち位置を変えて何回も計測できる設定だったので、生徒は意欲的に行うことができた。

2 学年 堀越先生 国語

【授業者の補足・説明】

ICT の使い方はどうだったか。個人的に、国語としては今回の形が望ましい。面と向かって話をした方が良い。

①探究的で創造的な課題設定について

- ・班ごとに核となる生徒。完全なる個ではなく学び合って訳を考えることで協働的かつ前向きに取り組んでいた。
- ・相談して導き出すという作業が非常に盛り上がっていた。体育で言うと苦手意識がある種目で消極的になる様子があるが、国語の授業では主体的に学習に入っていた。
- ・ICT の使い方について、自分も悩んでいた。スライドショーくらいか、と思った。十分良かった。

★どのようにそういった雰囲気を作ってきているか。

⇒去年から似たような形式で行っている。ペアやグループでの話し合いを繰り返しているため、それが良いか。本校の生徒は好奇心があるからよい風に働いている。

★辞書はあまり使わないか。

⇒辞書は引く。何も言わずに生徒自身で使ったりもする。学習に向かう姿勢、調べようとする姿勢が大切と考える。

⇒国語嫌いになってしまうと6年間もたないと言われている。

②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・Aさんが「Bが言っていたから」としきりに言っていた。良くない。
- ・ICT を使っていくことは教師としても書く時間が少なくなる。
- ・自分の教科でも「書き写す」という作業ができない生徒がいる。労力を使うような作業が減っているような印象。
- ・答えに行き着くまでの過程を書かせたいが、端折る生徒が増えているか。
- ・教科によって向き不向きがあると感じる。英語は話す時間も確保したいので、書く手間が省略できる ICT はそういう面では相性が良い。

①探究的で創造的な課題設定について

・生徒が自分で問いをたてるというのはよかった。・生徒が主体的に考えさせられる題材だった。

②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・生徒の意見を拾って次に繋げることや、問い返しがよくいった。
- ・心は揺らいだが、変えるまで至っていない生徒がいるので、意見を変えてもいいよと指示をして待つ時間をとって良かった。
- ・Jamboard で立場を明確にし、意見を交わし合うというのは良かった。考えの変容も捉えやすかった。
- ・登場人物の元さんに与えられた罰のイメージがわからない。
- ・生徒への質問が多く、ねらいにせまりきれなかった。
- ・途中で意見を変えるということへのハードルが高い。下げるために、簡単な質問で練習するといい。

①探究的で創造的な課題設定について

- ・本文の読解は終わった後のテーマに対してアウトプットする課題。・段階を踏んで話し合いが進むように。
- ・テーマは教員が個別に設定、「今回は紛争」・アウトプットはオリジナルで作成。・教科書から発展させて資料を準備。
- ・前回は「プラスチック」から環境問題に発展させて自分にできることを考えさせた。・評価に関しては看取りが中心。

②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・何かやってみようという空気がペア毎にできていた。・ペアと全体のバランス→全体で共有するときは時間があるとき。
- ・リサーチクエスチョンや問いを立てる活動→英語の活動の中に今までの他教科横断型の授業。
- ・自分のレベルに合わせた単語でも表現できる仕掛けがあった→間違ってもいいから話してみるという空気。
- ・ペアを超えたときの協働は?→今後の展開の中で全体で動かせる。
- ・1対1だとしゃべらざるを得ないのでペアであることも必要。

【授業者の補足・説明】

- ・室町時代の交易の一覧を用いて、貿易船の変化を考えさせた。教科書だと年号と事件の暗記になってしまう。それをどのように探求しようかと考えたときに、東大の過去問で表を見つけ、変化の理由を考えさせようと思った。
- ・自分の意見があまりない、と感じたので、まず自分の意見を考えさせ、共有し変化させるようにした。
- ・心配なのはA・B・Cさん。いつも Forms の送信が少なく遅い→社会情勢などを踏まえてかけるようになった

①探究的で創造的な課題設定について

- ・資料の中の歴史上の転換点が非常に捉えやすくなっていた。Aさんに最終的に書かせていたのがすごい。
- ・ABシートを使うのは面白そうだが、見させる資料について要工夫と感じた。
- ・共有20分設定。長過ぎるか?と思ったが、話したり聞きあったりするのにちょうどよかった。
- ・教科書と資料を使って、打ち込むために Chromebook を使う。後期生になるとテキストの情報量が十分なのだと思う。
- ★ネット検索では膨大すぎて逆にまとまらないのか?と思った。ネットで資料を検索することについてどう思うか?
⇒特に指定はしていない。変なものから引用してきたのに気づく。そこで情報ソースについて尋ね、軌道修正。
- ★難しいテーマ(東大の問題)だが、生徒にとってはやりがいがあった。論述対策をどうするか?
⇒打ち込ませる方策は考えていたが、改良させていくのが良かった。本当は3行程度にまとめる。今後の生徒の主体的な取り組みにつながる。

②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・全員が書いたものを見られることによって、「こうかけばいいんだ」「こういうところにフォーカスするんだ」と気づく。しかも、好きな生徒の回答が見られる。Aさんは人が変わったような回答を書いていた。
- ・Forms からスプレッドシートにリアルタイムで反映できることを知った。個別⇒全体のメリハリが付いて良い。
- ・E・Fさんは長文で読むのが辛いほど…字数指定もよいか?Gさんが2~3行でまとめてあり、そちらに目が行った。
- ・問題文は「簡潔に」となっていたが、先生が途中で「長くなってもいい」と声掛けをしたことによって筆が乗った。目的は解答を作るのではなく当時の社会情勢を知ることにあると考えるので、あとで字数がまとまれば、長文解答を作ることも目的に沿っているか。
- ★模範解答は示したか?
⇒昨年は示したが、指導主事と話す中で「それは×」となった。「生徒のこういうところがいいよね」と示すのが良い。今回なら「Eの〇〇はいいけど、〇〇はまとめたほうがいいよね」と伝える。そうしないと考えさせる意味がない。
⇒昨年はスプレッドシートにベタ打ちだったが、そうすると最初から人の回答が見られてしまう。教員の作業は忙しくなるが、最初は Forms で意見を書かせるほうが良い。

【授業者の補足・説明】

- ・今回の教材が説明の少ない、不親切な文章だったので、生徒自身が想像しながら読み進めていくようにさせる意図を持って課題を設定。ジャムボードを使っているが、図やイラストなども使いながら意見共有ができるツールとして、今回も使ってみた。
- ・国語の授業だったのかな?という疑問も持ちながらの授業であった。

①探究的で創造的な課題設定について

- ・生徒の思考活動が自分ごとになっており、抽象的な用語などを教師がわかりやすい言葉に直しながら語っていたことも生徒にとっての効果的な支援となっていた。
 - ・刺激的なテーマの、刺激的な授業となっていた。生徒は意見交換しながら積極的によく考えようとしていた。ジャムボードについても、行き詰まったときに他の班のものを参考にするなどして有効に活用できていた。
- ⇒問いの立て方の基準として、探求していく上で、本文から読み取るもの、これまでに学んだことをどのように使わせるか、それに対してどの部分を主体的に考えさせるかを考慮しつつ問いの設定をしてみた。
- ・創造的・探究的に生徒が思考活動するための、余裕というか、スペースが感じられるような授業であった。ジャムボードの使い方も生徒の自主性に任された部分があって、効果的に機能していたと思う。単元の最初に最後の探求の着地点を提示しておくやりかたもありうるかと思う。

②生徒に協働で追求させる授業展開について(特定の生徒の様子も)

- ・授業の雰囲気をよくするリーダー的な生徒が数名いて、誰一人授業から離れることなく協働的に学んでいこうとする姿勢が見られて印象的であった。

★生徒の解答は、教師の想定していた解答の範囲に対してどのようなものであったか。

⇒奇抜なアイデアも含めて、面白い解答が得られてこちらも刺激を受けた部分があった。

3. 研修を通して学んだこと・振り返り

- ・実験をすることは、予想と結果との違いに驚き、その差について調べようとするので、学習の動機づけに良い。
- ・生徒が個々の課題を見つけて改善のための練習の場を設定し、同じ課題同士で見合い教え合いながら取り組むことができるようになってきた。他の教科のICTの活用方法はとても参考になった。
- ・ICTの活用場面への理解が深まった今、使用の有無を培いたい力に応じて選択していく必要があると考えた。
- ・手で字を書くこともとても大事。国語におけるICT機器の使い方について考えさせられた。
- ・スライド等を使うことで教員の板書を減らし、思考・判断の時間を増やしているが、その分生徒は「書く」機会が減るとということに気付かされた。ICTをどの場面で使うのか、使わないのかこれからは、熟考する必要がある。
- ・前期は、生徒が楽しく、好きになる授業が大切だということ。・道徳の授業は、ねらいにせまるための発問の組み立てが難し。
- ・用意する教材の他に、発問によって生徒の探究活動も変化していくことを実感することができた。生徒の問題意識が揺さぶられる発問ができるよう、授業準備を進めていきたい。
- ・評価と活動をどのように関連させるのか、生徒が自分の変容をどう感じられるようにするのかを計画的に取り入れることで、生徒が目的意識ややりがいをもって授業に参加できると学んだ。
- ・歴史の授業や道徳の授業を参観し、生徒主体の授業づくりについて改めて考えることができた。そのためには課題設定が重要であり、課題の質で生徒の活動が決まると思った。
- ・授業内で考えが深まる場面設定を複数設定できると良い。教員側で授業の落とし所を持つ必要がある。
- ・創造させるためには生徒にとって興味深いものを提示しなければならない。
- ・道徳の授業で、ジレンマ教材を上手く活用していた。心のバロメーターをジャムボードでクラス全体に共有していた。生徒が教材から離れ自分事にできていた。
- ・英文を読み、生徒が内容を自分事としてとらえ様々な世界情勢を踏まえた上で問を作成し、シェアし、他者の考えを取り入れてさらに考えを深めるという授業構成を見て、一単元内でできることがこんなにあるということ学んだ。
- ・対話することで意見が深まっていく様子を感じられた。前期生、特に語彙や表現が少ない状況で同じ授業のような内容を実践することは難しいかもしれないが、今以上に対話する場面を設定していきたい。
- ・言語活動を自由テーマで行う際には、探究の流れが入れやすいと感じた。逆に FEWC で培ってきた探究の流れを教科に落とし込むことができている、教科横断型が確実に実践できていると同時に教科のSGH化はかなり進んでいると実感した。
- ・生徒の自分の意見作成をスタートとして、生徒同士の話し合い活動を通じて、自分の意見をよりよいものにする一つの授業展開例として参考になった。
- ・まずは他人の意見に目もくれず、自分の意見を書かせる。その上で改良しないと、文章をどのように書いてよいかわからなくなる。
- ・まさに考査(試験・入試)につながる創造的な探究で、非常に勉強になった。Forms とスプレッドシートの組み合わせで論述対策ができそう。
- ・ICTの使用により生徒の思考の深め方やコミュニケーションが可視化され、他者に伝わりやすくなると感じた。
- ・生徒が協働して授業を良いものにしようとする姿勢があった。生徒と授業を作り上げることに刺激を受けた。
- ・発問を通して、如何に教材を生徒の自分事にできるか、ということ考えた。今回の教材は身近な話題だったため、問が立てやすかったが、教材のテーマや文章の性質によって教員側の力が問われると思う。また既有知識を活用して多様な考え方のできる問にすると、協働的な学びに繋がりがやすい。
- ・現代文は、作品を学ぶことによって、自分の生き方を考える教科だとわかった。家族の問題では、あなたはどんな家庭をつくりたいのかと、問われていると感じた。
- ・問の立て方一つで生徒の自由な発想や意見が引き出せる。準備段階でどのような問を立てるかを大切にしたい。